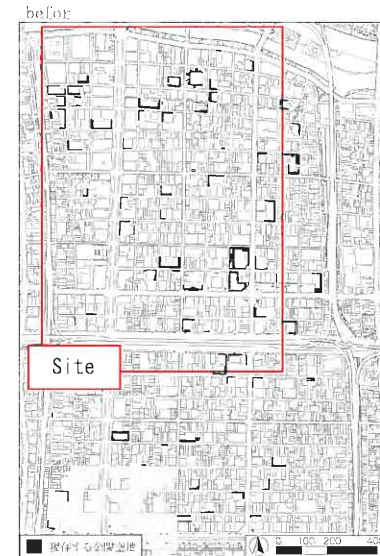


スキマ = コモンズ



01. Story

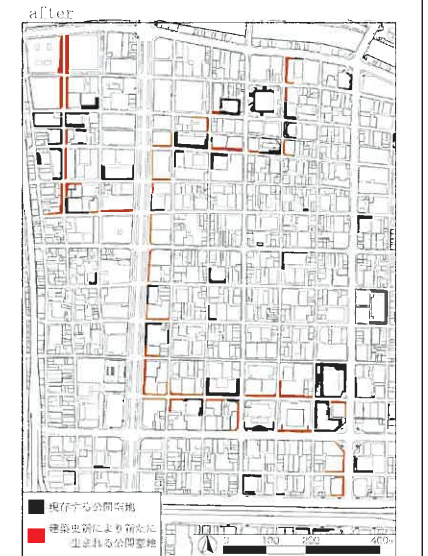
大阪船場には総合設計制度による公開空地という“パブリックスペース”が数多く存在し、更に近年確実に増加している。しかし、船場では公開空地は壁やフェンスによってつながりが絶たれ、連続性を持たずに小さなスキマのように点在しているのが現状である。



“公共の空間”であるはずの公開空地が、周辺と隔離され、誰にも使われることなく“誰のものでもない空間”になってしまっている。

そこでこの公開空地に連続性を持たせ、つないでいくことでコモンスペース＝“みんなの空間”を創り出す。小さなスキマが大きなスキマとなり、都市に新たな層が生まれる。

人々はこの大きなスキマを使い、都市で、走る。



02. Diagram

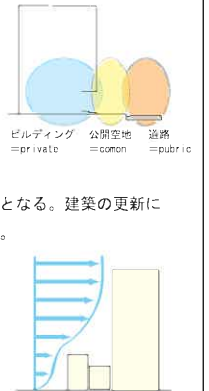


総合設計制度を用いて公開空地を作りながらコモンスペースを連続させていく。

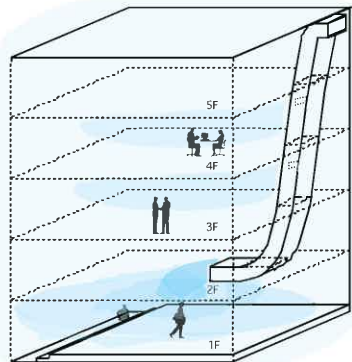
連続したコモンスペースは、パブリックスペースとプライベートスペースの間に入り込む“層”のような、大きなスキマとなる。建築の更新にあわせて、スキマが連続していく。

新しい建築は、涼しい風を都市に呼び込む装置となる。

ビルの高層部には、風を遮るものが周囲に存在しないため、強く、涼しい風が吹く。その風をビルの内部に取り込み、公開空地へ放出させる。通風ダクトをビル内部に設置し、高層ビルに吹く風をビルのエントランスに吹きだす。ビル内部に涼しい風を送るとともに、公開空地をクールスポットに変える。クールスポットが連続し、都市が涼しくなる。

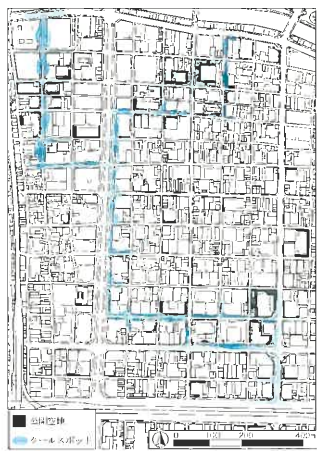


03. Detail I



ビルの内部に設置したエスカレーター状の通風ダクトは、上空に流れる涼しい風を最上階の開口部から取り込む。取り込まれた風は下降しながら各階へと送られ、最後はエントランスに流れる。

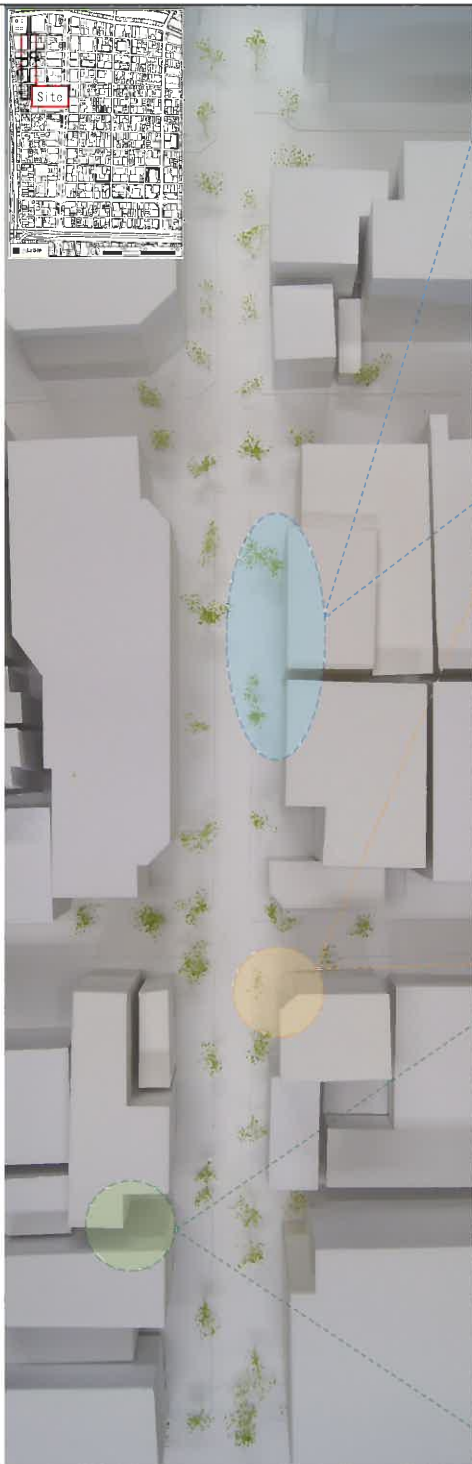
この仕掛けにより、ビルの内・外部が涼しくなり、冷房負荷の低減につながる。



涼しい風が作り出したいくつものクールスポット。そのスポットから、風はスキマに拡がっていく。

“クールスポット”が繋がり、“クールエリア”へと変わる。

涼しくなった船場の夏。クール・コモンスペースで、人々はそれぞれの楽しみ方を発見する。



■ 座る

運動して疲れたら、ビルのエントランスで少し休憩していいこう。

通風ダクトから涼しい風が送られてくるこの場所に座れば、火照った身体を風が冷やしてくれる。

お気に入りのクールスポットを見つけ、ストレッチをしながら身体をゆっくり休める・・・。

「よし、今日はもう少しだけ頑張って走ってみよう！」



■ お弁当の販売

昼時になると、このエリアには“お弁当屋さん”がやってきて、働く人々にお弁当を販売する。

コモンスペースが広がって、新しく別のお弁当屋さんもやって来るようになった。

働く人々にとっても、昼食は楽しみのひとつ。その選択肢が増え、選ぶことも毎日の楽しみとなった。

「今日はおどのお弁当にしようかな？」

04. Enjoying



■ 走る

涼しい場所での運動はとても気持ちが良い。クールエリアでランニングコースを決めて、オフィス街を駆け抜ける。

そして、同じコースを走る人との間に“コミュニケーション”が生まれることも。

■ 通勤

オフィスビルが建ち並ぶこのエリアに涼しい風が吹く。暑くて嫌いだった夏の通勤も、少しは好きになれそうだ。



■ オープンカフェ

休日になると、コモンスペースにカフェがオープンし、賑わいを見せる。

カップルや子供連れ、ランニングを終えた人やサラリーマンなど、誰でも気軽に立ち寄れるカフェだ。

ビルの階段がベンチ代わりとなり、半屋外空間でちょっと一息。

「オフィス街なのに、こんなにいい雰囲気のカフェがあったんだね！」